

保育計画成果報告書

法人名等	NPO 法人港南台こどもっと
施設名	こどもっと保育園
報告者（役職）	勝浦 いづみ（ 園長 ）
住所・連絡先	〒234-0054 横浜市港南区港南台 5-5-12 1F
	☎ 045-831-5450
	E-mail info@kodomotto.jp

○タイトル（保育計画）

「こどもっと保育園は2番目のおうち」おうちのように安心して過ごし、わくわく楽しいことを体験するところ

○主な助成備品

テント おもちゃ棚 絵本棚

1. 保育計画策定の目的

当園は平成28年4月に横浜市認定保育室から認可移行し、0歳児から2歳児を対象にした認可乳児保育所となりました。園舎は新築2階建てで、2階に大家さんが居住され、1階部分を保育園として利用させていただいています。保育園は小さな園庭とウッドデッキがあり、室内は木材をふんだんに使い、木の温もりに溢れた環境です。

0歳児から2歳児までの乳児が対象であること、子どもにとっても保護者にとっても初めての保育園であるということを鑑み、おうちのような感覚で子どもたちが毎日を過ごし、保護者もほっと安心できるような雰囲気づくりを心がけています。

また、乳児が人として育つ過程で生活習慣を身につけていくことは大変重要なことです。信頼する保育士に丁寧に育児行為をしてもらいながら、自分でできるようになる道筋を体得していきます。その一方で、一人ひとりが満足する遊びがどのように提供されるかは、保育士側の環境設定やかかわり方に大きく左右されます。その年齢なりにわくわくするような、夢中になるような遊びとはどのようなものなのか、環境構成と保育士のかかわり方に焦点を置いて保育計画を立てました。

2. 具体的な実施内容

《ウッドデッキでの活動》テント設置による有効活動

保育室南面にあるウッドデッキは室内からすぐに戸外の空気、風、匂いを感じられ五感をふるに活用することができる場所です。日差しが強くなる季節には助成していただいたテントを設置し、0歳児、1歳児、2歳児がその年令に合った活動を楽しみました。

0歳児



あっちの先生のところからこっちの先生のところまでハイハイでやってきました！長い距離もへっちゃらです。

1歳児



しゃぼん玉も上手に吹けるようになりました。午後のおやつ後のちょっとした気分転換に最適な場所でもあります。

2歳児



強い日差しを遮り、通気性の良いこのテントは、こどもたちが暑さも忘れて思い思いに集中して遊ぶことにとっても役立ちました。一番の人気はソフトなさわり心地の水鉄砲。2歳児の手でも十分飛ばすことができました。テントは夏に必須の水遊び体験を支えてくれました。

《室内での環境設定とあそび》絵本棚やおもちゃ棚を使つてのコーナー作り 1歳児の事例



①



②



③



④



玩具棚や絵本棚を効果的に配置して、1歳児室の広い部屋をコーナーで仕切りこどもたちの興味や関心を引き出すような環境設定を心がけました。配置位置は状況に応じて移動させることにより新たな遊びの展開が見られました。

コーナーは粗大あそびコーナー(写真①)、絵本コーナー(写真②)、ままごとコーナー、(写真③)微細あそびコーナー(写真④)などに分けて、こどもたちがやりたい遊びを見つけて主体的に遊べるよう工夫しました。

粗大遊びコーナーには木製トンネルを置き室内でも体を動かして遊ぶことを選択できるようにしました。絵本コーナーは自分が見たい絵本がすぐに手に取れるよう配置し、その近くには小さなテーブルや椅子を置くことによって、ともだちも一緒に絵本の世界を共有することができました。ままごとコーナーでは食材に見立てたチェーンリングを色々な大きさの容器に入れたり、テーブルに並べたりするうちに誰かと一緒に遊んでいる場となっていきました。微細あそびコーナーはつまんだり入れたり出したりができる遊びができるコーナーとしました。

3. その成果と評価

1歳児は4月から3月の一年間の間に、目まぐるしく成長発達をする時期で、おもちゃも環境構成もその時期をよく観察しながら用意したり、設定し直したりしていきました。保育士は常にこどもたちの興味関心や体の動きにもアンテナをはり、柔軟に対応していく力をつけることができました。

1歳児の特徴として、いろいろなものに興味や関心が移り、1ヶ所でじっと集中して遊ぶより、興味のあるところに動いてそこにいるものや人にかかわり、また次に移るといった行動パターンを繰り返しながら、次第に集中できる遊びも増えていく傾向にあります。また、自己主張が次第に顕著になり、始めになかった物の取り合いなどによるトラブルも増えてくる時期で、あらゆる場面での保育士のかかわりにより個々の遊びの持続を助け満足いくものにしたり、新しい遊びを見つけることができるようになりました。

保育士の仲立ちや見守りにより、遊びを通して自然にこどもどうしのかかわりが生まれ、生き生きと楽しそうに遊ぶ様子も見られました。

楽しいコーナー設定とたくさんの種類のおもちゃを準備し、それらを保育士が有効に活用していくことのスキルを学んだ1年だったと評価できます。

4. 今後の課題と展望

当園は0歳児から2歳児までの乳児認可保育園で、乳児期の発達を支えることが第一の目標となります。その大事な時期を安心して過ごしながら、こどもたちにとって「明日も保育園で遊ぼう」と思える、わくわくするような遊びを提供していけるよう環境設定やおもちゃの選定を今後も研究していきたいと思えます。助成していただいた物品はこれからも環境を重視した保育活動に大いに役立てていきたいと思えます。

以上